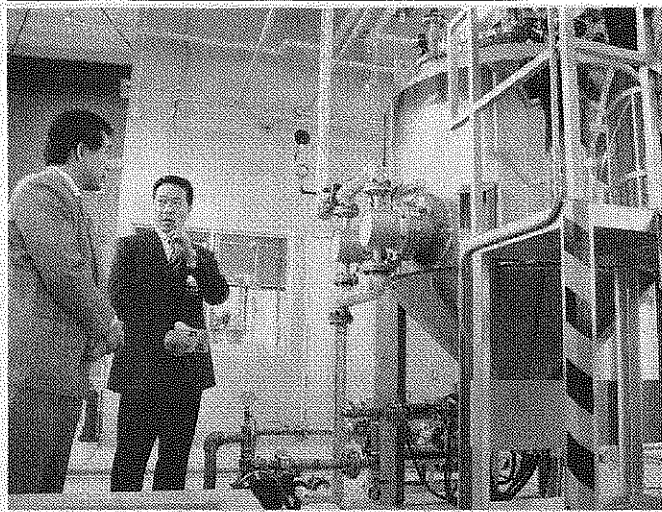


BDF精製装置を前に西川旭川市長（右）に  
仕組みを説明する篠原社長



2007-4-25 (土) 道新 旭川

# 旭川に道内最大 精製工場が完成

【旭川】せっけん製造のペカルト化成（旭川、篠原泰則社長）が旭川市東鷹栖東二に建設していたバイオディーゼル燃料（BDF）精製工場が完成し二十四日、西川将人旭川市長ら関係者に披露された。耐寒性を高めた独自開発のBDFを一日二千七百リットル生産でき、道内最大規模という。五月下旬から本格稼働する。

工場は鉄骨平屋三百三十平方メートル。メインのBDF精製装置は高さ二・五メートル、直径一・五メートル。飲食店や一般家庭などから出た使用済みの天ぷら油などを原料に、メチルアルコールと触媒で化学反応させる仕組み。真冬の旭川でも使える寒冷地仕様のBDFを精製できる。

原料の廃油は、旭川市が指定したカソリンスタンドなどの収集拠点に市民が持ち込んだものを回収する。生産したBDFは市のごみ収集車の燃料に使用される。

経済産業省の新エネルギー事業者支援補助金三千万円を含め総事業費は約一億四千万円。篠原社長は「本業のせっけん作りと同じ発想から生まれた廃油リサイクル製品で、原料となる廃油を安定的に確保するのが課題」と話している。